

改植によるナシ産地の再構築

ポット育苗による大苗作り及び根域制限栽培の実施



佐賀県果樹試験場 落葉果樹研究担当係長

稲 富 和 弘

改植のための大苗作りについては、これまでも佐賀の果樹に記載しましたが、土量の確保や持ち運びの際の根痛みなどが問題でした。

今回、ポットでの育苗方法について、西松浦農業改良普及センターの実践を中心に述べてみたいと思います。

植え付け準備

◇植栽場所

植え付け場所は、日当たりがよく、かつ風が強くない場所、梅雨期などに滞水しない所を選ぶ。

また、防除や運搬が容易で、かん水の用水が確保ができることも重要である。

◇ポット育苗圃場の準備

大苗育苗ポットは、土中に埋めこむためその準備を行う。滞水の心配が無い圃場で行っていくが、トレんチャイがある場合、深さ40cmで溝を掘り、ポットを50×100cm間隔で置いていく。

掘り上げた土壌をポットの間埋め戻し、乾燥を防止する。本数が少ない場合は、ポットの大きさの穴を掘り、埋めていく。



ポット育苗の生育状況

◇ポットの準備

ポットは、透水性の資材を利用する。また、底面以外は貫根型の不織布でできたポットを利用すれば、そのまま改植圃場に埋め込むことができる。

大きさは、直径50cm程度のものが良く、これ以上小さいと生育が悪くなる。

大苗育苗用の用土は山土を利用し、保水性を高めるためにモミガラ葉炭かピートモスを30%程度混和する。

その他の改良資材として、苦土セルカ、熔りん、微量要素剤FTEを混和するが、100ポット当たりの目安は、圧縮ピートモス3×4梱包、苦土セルカ一袋、熔りん4kg、微量要素剤FTE一kgである。

◇土壌改良資材の混和

一ポット当たりピートモスを4×6ℓ（カナダ産圧縮ピート一梱包で30ℓ鉢30×40鉢分・膨軟化時の容量で3割前後）、セルカを200g、熔りん20g（原土がpH6になる量の二倍・酸性のピートモスと溶脱を考える）、微量要素剤FTEを5gを良く混和して培土を作る。

作業性を考え、下がコンクリートのような場所ではシヨベルカーなどを利用し行う。

また、植え付け時には苗が痛まないようにスムーズに行う必要がある。培土は前もって作成しておく。（写真）

◇培土の運搬

出来上がった培土は、その場で苗木を植えつけながら直接ポットに詰めでも良いが、圃場内での運搬が機械でできない場合は、一旦、肥料や堆肥等の空き袋に詰め、苗圃まで袋

で運びそこで苗を植えつけながらポットに詰めた方が楽である。(やや大きめのまると梨配合袋満杯で一ポット分が目安)

苗木の植え付け

◇ポットへの植え付け

苗木は、植え付け前にフロンサイド一、〇〇〇倍液に根部を漬けておく。
植え付けは、深植えや浅植えにな



写真1 培土の作成

らない様に、根を広げながら、接木部の高さを揃えて植える。
土壌が沈下し根が露出した場合は、土を補う。(写真2、3)

◇うねへの埋め込み

ポットの土壌表面と植え付け圃場表面の高さが同じになるように埋めていく。

排水が不良で浅い溝に置く場合、ポットに直接紫外線が当たり資材が劣化したり、風当たりによる乾燥を抑えるため、土寄せを行って、ポツ

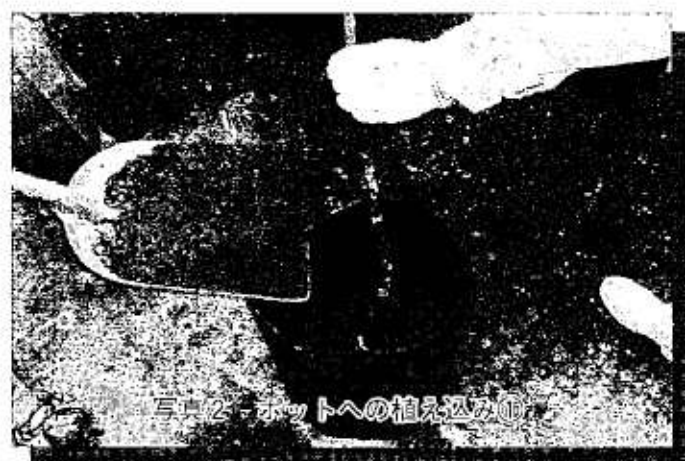


写真2 ポットへの植え込み①

ト側面の露出は5cm程度とする。
植え付け後、直ちにかん水しながら、植え付け深さを調節(台木部を出す)、培土が沈下した場合補給する。(写真4)

◇苗木の固定

支柱の設置や棚を利用して、苗木が揺れないように固定する。

◇乾燥・雑草発生防止対策

苗木の生育は乾燥や雑草の影響を受けやすいので、わら類や黒ポリ等



写真3 ポットへの植え込み②

でうねごとマルチを行う。

育苗管理

◇かん水の実施

土壌中に埋設させてあるため、頻繁なかん水は必要としないが、植え付けて一月間は一週間毎にかん水する。

その後は、降雨がなければかん水を実施する。

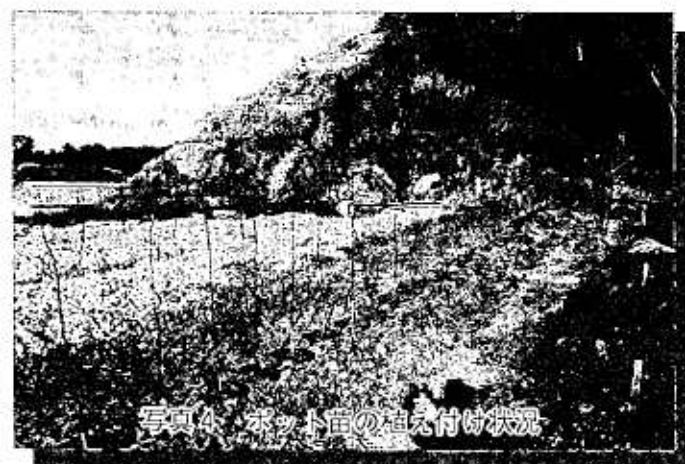


写真4 ポット苗の植え付け状況

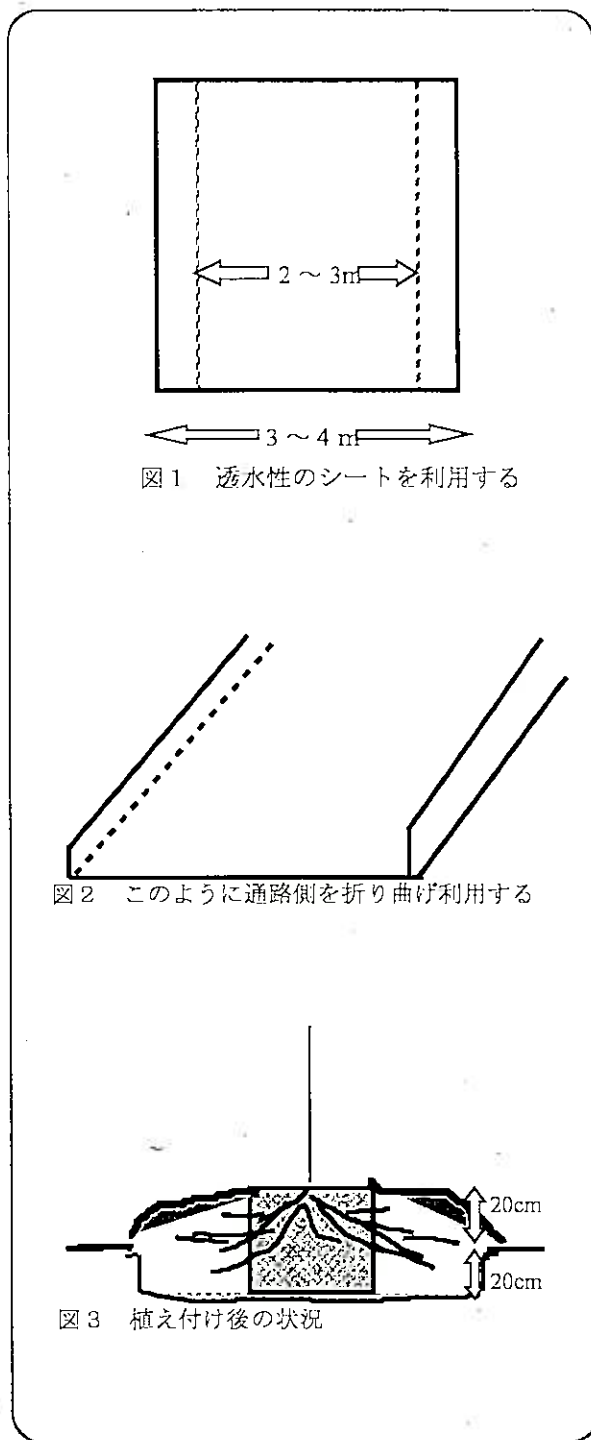


図1 透水性のシートを利用する

図2 このように通路側を折り曲げ利用する

図3 植え付け後の状況

◇施肥

植え付け時に被覆肥料（肥効くん）を一ポットあたり一〇〇g施用する。秋植えの場合、五月頃までは追肥は必要ないと思うが、伸長が停止するようであれば化成肥料を三〇〜五〇g施用する。

◇防除

慣行の防除に従う。ただし、カメムシ防除や七月以降のナシヒメシンクイ等果実の被害を対象とする防除は省いて良い。

◇雑草管理

ポットへの除草剤散布はしない。

（移行タイプの除草剤でも根が浅いポット栽培の場合は、分解される前に根に付着して吸収される恐れがあるため）

・麦わらなどでマルチしている場合は、マルチ下の土壌の乾燥程度を確認しながらかん水を行う。

・モミガラや麦わらは、厚く敷いた場合、普段のかん水では水が土壌まで達しないことが多い。

・ポット周辺の雑草が繁茂すると、カミキリムシなどの被害が発生しやすいので周辺環境も整備する。ポット周辺は除草剤を散布しても良いがポットに入らない様にする。

◇強風後の揺れ穴対策

強風後は揺れによって、株元に穴が空くことがあるので踏み込んで締め付ける。

根域（根底）制限栽培による初期生育向上

ミカンやブドウで行われている根域制限栽培は、完全に土壌と隔離する方法ですが、この方法をナシで行うと大量の土の確保、資材費などのコストが高すぎることで、また、ナシは乾燥を極端に嫌うため、頻繁なかん水が必要となります。

ここでのポイントは、根底制限で

す。ナシは立ち木であるため、植え付け後、根は下に向かって生育する習性があります。

せつかく、伸長しても梅雨時期に根腐れを起こしやすいし、施肥効果も低くなります。

植え付け後、順調に生育させるためには植え穴に透水性のシートを設置することが有効です。

・紋羽病発生跡地でも、この方法で改植すれば問題なく順調に生育します。

以下、一年間ポット育成した大苗の圃場への植え付け方法について述べます。

◇圃場の整備

・改植場所の樹は柵面の枝は切り落とし、主幹のみにする。

・バックホーを利用し根部を掘り取り、深さ三〇cm程度は残痕の無い状態にする。

・幅二〜三m、深さ二〇〜三〇cmで地ならしを行う。

◇シートの設置方法

・列で設置する場合

深さ二〇〜三〇cm掘り下げた圃場に幅三〜四m程度の透水性シートを両端五〇cm折り、敷いていく。

基本的には根底を制限すれば良いが、列間の機械が走行する場所への

根の伸長を制限するためにシート両端を折り曲げて利用する。

・一樹ずつ行う場合

支柱があり、列で行えない場合は、シートを30cm程度の長さに切り、一樹ずつシートを敷いていく。

(図1、2)

◇ポット苗の植え付け

・シートを敷いた上に、二ノ三m間隔にポットを置いていく。

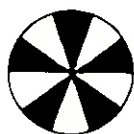
・ポットの側面は数カ所切り込みを入れ、根が伸長出来るようにしておく。

・ポット周囲1m程度は圃場の土ではなく、必ず持ち込んだ山土を利用する。

それより、外部は圃場の土を利用して良い。また、山土には保水性を高めるためにピートモスを三〇%程度混ぜ合わせる。
乾燥防止のため、表面は麦わらなどのマルチを必ず行う。(図3)

総合容器メーカー

営業品目 / 飲料用容器・缶詰用空缶・ダイエルテン缶・18リットル缶・プラスチックチューブ・プラスチックボトル・各種キャップ・缶詰製造プラント

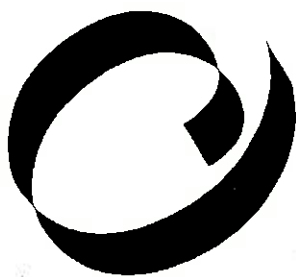


大和製罐株式会社 九州販売部

佐賀県三養基郡上峰町大字堤30-9 ☎(0952)53-1161 〒849-0124

本社 東京都中央区日本橋2-1-10 ☎(03)3272-0561 〒103-8240
大阪事務所 大阪市東区北久宝寺町2-44山口興産ビル ☎(06)262-4381 〒541-0057
工場 仙台・真岡・東京・清水・大阪・広島・九州・戸畑

紙の総合メーカー



王子板紙株式会社

社長 山本信能

東京都中央区銀座5丁目12-8
TEL 03-3543-1111

九州営業所
福岡市博多区店屋町1-35
博多三井ビル2号館5F TEL092-281-6411